

九州圏広域地方計画に係る学識者の意見について

平成27年12月8日 第7回 九州圏広域地方計画協議会学識者懇談会

項目	要 旨
産 業	農産物の輸出より輸入の量が圧倒的に多い。TPPで輸入が増加した場合への対応方針も検討してはどうか。
	高齢化により農業の生産力が低下している。また、日本人の食生活の変化で、米の消費量も減少が続いている。
	農業の事業を拡大するには外部労働力が必要となるが、外国人の労働力をどのように確保していくかが問題である。
	「オール九州農水産物」や九州ブランドの確立等を謳っているところが非常に良い。
	ICTの活用は、先進技術の取組だけではなく、人手不足解消のための活用方法も検討してはどうか。大分県の林業でのロボット化や農業を管理する際のICT利用などの事例もある。
人材育成	大学側は、留学生を受け入れたいが財源問題に直面しているため、アジアゲートウェイであれば、九州(日本)だけでなく、アジアも費用負担ができないか。
観 光	第二期九州観光戦略は、観光業を九州の基幹産業とすることを目指している。本文で九州を訪れる外国人旅行者数(2023年440万人)を目標に掲げているが、観光収入の目標も加えたらどうか。
	外国人旅行者のうち、富裕層は、宿泊・滞在する傾向があるため、富裕層向けの観光施策についても検討したらどうか。
	1日60万人が宿泊できるキャパが九州には有る。今後は、増加する宿泊客に対応するためには民泊の取組についても検討する必要がある。
小さな拠点	「道の駅」を地域拠点としての記述はあるが、広域拠点(連携や防災機能)としての役割も加えたらどうか。
	植林には土砂災害抑止機能の維持の役割もある。「小さな拠点」は、生活拠点としての位置づけだけでなく防災拠点としての側面でも加えたらどうか。
	IターンUターンなど移住をどう確保するか、九州一体で移住の受け皿としてどう取り組むかが重要。「小さな拠点」での取組も加えたらどうか。
	九州のコンパクトシティのイメージが沸かないため、事例として、西米良村の貨客混乗などの取組も加えたらどうか。
少子化対策	九州圏は出生率が比較的高いが、パート労働の女性が多いためでもある。女性の活躍を促すには子育て支援施策の充実は不可欠であるため、育児支援の記載や結婚支援についても加えたらどうか。
環 境	「温室効果ガスの削減のための植林の再造林」という記述では、一面的すぎる表現で誤解を招くため、「流域環境の保全や生物多様性に配慮しつつ」と記載してはどうか。